



見える学力、見えない学力

～ 令和6年度全国学力学習状況調査の結果より ～

4月18日に6年生を対象に実施した令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を公表します。本校は下表のとおり、国語・算数とも津市・三重県、そして全国を上回る平均正答率でした。

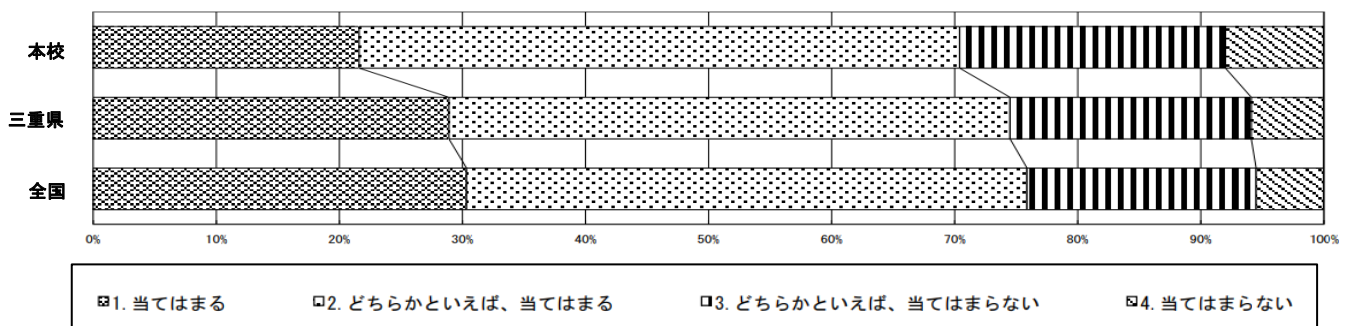
ここで大切にしたいことは、数値結果ではなく、子どもたちが日頃からの学習の中で、仲間とともに学ぶ楽しさや喜びを感じているか、そして、子どもたちに今どのような学力が求められているか、を子どもたちと私たち教員が共通認識を持った上で、日頃の授業を大切にすることだと考えています。

平均正答率(%)	国語	算数
本校	75	71
津市	67	62
三重県	67	62
全国	67.7	63.4

この学力調査の問題は、子どもたちにとって身近な学校生活を題材にしたものが多く、友だちと意見を交流し、協力し合う場面が多く使われています。このことから、子どもたちの日常生活の中には常に学びがあり、学びは「人とのかかわり」で高まり合い、この学び合いを通じて自分の心で考え、自分の言葉で発信することが今求められていると読み取ることができます。本校の児童一人ひとりの解答用紙を見ると、多くの児童が一つ一つの問題をじっくりと考え、自ら導き出した答えを自信を持って解答していることが分かり、とても嬉しく思いました。

一方で、同日に調査した「生活習慣や学習環境等に関する質問調査」を見ると、下のグラフのような気になる結果もありました。自分と違う意見があることで「なるほど。そんな考えがあったのか！」と思えるような学習機会を増やしていければと思います。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか？」



学習テストやIQのように数値化できない「粘り強さ」や「自信」「協調性」や「積極性」等は「非認知能力」と呼ばれ、最近特に注目されている「見えない学力」とも言われています。先日の新聞等にも、学力だけではない多様な観点で多面的に評価する「総合型選抜」を入試で既に導入している国立大学が約78%を占めているとの報道もありました。

見える学力も大切ですが、自分の存在自体に自信を持ち、自分の力を信じ、自分ならきっとできると思うこと、たとえ一人でできなくても、友だちとなら一緒に頑張ろうと思えること、この「見えない学力」が最後には底力を発揮するのだと思います。